

81 紺屋の白袴こうや しろばかま

自分の技能は他人にばかり使っていて、自分の事には使われていないことのとえ。

82 転ばぬ先の杖ころばぬ 先の づえ

失敗しないように、あらかじめ十分に用心しておくこと。また、そのような用心が大切だということとえ。

83 先んずれば人を制すさき 先んずれば 人を せいす

人より先に行動すれば、有利になって相手を制することができるということ。

84 猿も木から落ちるさる も 木 から 落ちる

どんなに優れた人物でも、失敗することはあるということとえ。

85 触らぬ神に祟りなしさわ 触らぬ 神に 祟りなし

余計な災難にあわないために、余計なことには手出ししない方がいい。

86 山椒は小粒でもぴりりと辛いさんしょう 山椒は 小粒でも ぴりりと 辛い

体は小さくても、意志が強くて才能もあり、あなどることができない者のたとえ。

87 三人寄れば文殊の知恵さんにんよ 三人寄れば 文殊の 知恵

一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人集まって考えれば、すばらしい知恵が浮かんでくるということ。

88 地獄の沙汰も金次第じごくの 沙汰も 金次第

世の中は、お金さえあればなんでも自由にできるということ。

89 親しき仲にも礼儀ありした 親しき 仲にも 礼儀あり

どんなに親しい仲でも、遠慮がなくなると喧嘩の原因になるから、それなりの礼儀を守って付き合うべきだ。

90 失敗は成功の基しつぱい 失敗は 成功の 基

失敗したとしても、反省して、失敗の原因を改善すれば、成功へとつながる。やがては成功するものだということ。

91 朱に交われば赤くなるしゆ に 交われば 赤くなる

人は付き合う友人や周りの環境によって、良くも悪くもなるものだということ。

92 初心忘るべからずしよしんわす 初心忘る べからず

物事に慣れて怠けたりすることのないように、それを始めたときの心構えや決心は忘れずにいるべきだということ。

93 知らぬが仏し 知らぬが 仏

知つたら腹が立つようなことでも、知らないままでいれば平気でいられるということ。

94 好きこそものの上手なれす 好きこそ ものの上手なれ

好きなことには自然とやる気がでてくるから、上手になるということ。

95 住めば都す 住めば 都

不便な場所でも長く住めば慣れて、良いと思えるようになるということ。

96 急いては事を仕損じるせ 急いては 事を 仕損じる

焦って事に当たると失敗しやすい。

97 梅檀は双葉より芳しせんだん 梅檀は 双葉より 芳し

大人になって大成するような人は、子どもの時から並外れて優れているということ。

98 善は急げぜん は 急げ

良いと思つたことは、ためらわずに急いでやるべきだ。

99 袖振り合うも多生の縁そで 袖振り合うも 多生の 縁

些細なことも何らかの因縁によって結ばれているものだ。

100 泰山鳴動して鼠一匹たいざんめいどうして 鼠一匹

前触れが大きい割に、大したことのない結果に終わること。